



柏原円城寺のわきだち（側面） 柏原円城寺のわきだち（正面）

文化六年の風土記には浄土宗とある。寛永三年（一六二六）に観蒼という僧が住んだとあるが、加藤嘉明来封頃の時代を示している。本尊阿弥陀尊は御丈五〇センチであるが、その裏にある秘仏は正観世音が御丈二九センチが祭られてある。阿弥陀のわきだちに、腰を後にかがめた左のものは御丈四三、右のものは四一センチの立派な像がある。

付 文化六年の風土記より

柏原村

府城の西に当り行程一里七町、家数二十九軒、東西一町五十五間、南北二町二十四間、四方田圃なり。東西四町三十六間下米塚村の界に至る。其

村は寅に当り六町余 西一町二十六間、本郡中荒井組東麻生村の界に至る。其村まで六町五十間余、南一町四十間、下小松村の界に至る。其村まで八町四十間、北六町、本郡中荒井組中荒井村の界に至る。其村まで十二町余。

○原野 松原、村東一町余にあり。東西三十四間、南北二町。

○土産 甜瓜、此村より産するもの味美なり。近村よりも多く産す。

○水利 思いぼり堰、下小松村の方より来り田地の養水とし、下米塚村の方に注ぐ。